

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861978

研究課題名（和文）在宅認知症高齢者を介護する家族のソーシャルサポートを活用した支援モデルの構築

研究課題名（英文）Development of Social Support Assessment Scale for Family Caregivers of Older Adults with Dementia at Home (SSFD)

研究代表者

安武 綾 (Yasutake, Aya)

熊本大学・大学院生命科学研究部（保）・准教授

研究者番号：40366464

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：【目的】在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポートを測定する尺度を開発する。  
 【デザイン】在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポート尺度の開発のための量的横断的質問紙調査。【方法】調査表を留め置き法で配布した。【結果】314名(82.8%)より回収し探索的因子分析にて「情緒的支援」「実用的家事介護支援」「適切な情報提供」「介護への意味づけへの支援」「レスパイトのための調整」の下位概念で構成された。【結論】「在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポート尺度」の信頼性と妥当性が確認され、在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポートの有無とサポート源を測定することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：【Purpose】The aim of this study was to develop the SSFD. 【Design】This was an exploratory quantitative study using an interactive process to develop the SSFD. 【Method】Data analysis included descriptive statistics, exploratory factor analysis, confidence factor, confirmatory factor analysis. 【Results】This study were then named [Emotional support], [Practical care and domesticities support], [Appropriate provide of information support], [Support meaning to care], [Adjustment for a respite care support].The Cronbach's of five factor from 0.880, met the criteria of goodness of fit. 【Conclusions】The reliability and validity of the SSFD as a measure for the social support of family caregivers of Older Adults with dementia at home. Future, it is possible to the outcome study of the social support of family caregivers of Older Adults with dementia.The aim of this study was to develop the SSFD.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：認知症 高齢者 介護者 ソーシャルサポート 在宅 家族 支援モデル 尺度開発

## 1. 研究開始当初の背景

近年、発症初期の在宅認知症高齢者を支える家族介護者は、患者の言動が認知症状であるということや介護が大変であることを、周囲から理解してもらえないと感じ、社会的にも孤立し援助を求めにくい状態にあることが明らかになっている(安武綾: 認知症患者を介護している家族のメタ統合, 家族看護学研究, 17(1), 2-12, 2011.).

先行研究によると、在宅認知症高齢者を介護する家族が適切なソーシャルサポートを獲得することで、在宅認知症高齢者の Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia(以下 BPSD)を予防又は改善できるようなかかわりにつながっていることが明らかにされている。認知症は、中核症状に加えて様々な BPSD に対応していかなければならないという点から、家族介護者の介護の特殊性があるため、この状況に適したソーシャルサポート尺度を用いる必要があると考えた。また、認知症患者を介護する家族のソーシャルサポートに主観的幸福感・主観的健康観・自己効力感などが正の相関があり、介護負担感、抑うつ状態などは負の相関があるとの報告があることから、在宅認知症高齢者を介護する家族の特性を考慮したソーシャルサポート尺度の開発が急務であると考えた。

## 2. 研究の目的

在宅認知症高齢者を介護する家族のソーシャルサポート尺度を開発し、認知症高齢者の家族介護者のソーシャルサポートおよび関連要因(QOL・介護負担感)を明らかにすることで、ソーシャルサポートを活用した家族介護者への支援モデルを構築することを目的とした。

## 3. 研究の方法

**第1段階(平成26年度)**は、認知症通所介護事業所に通所する認知症高齢者の家族 物の忘れ外来に通院する認知症高齢者の家族 認知症家族会の家族を対象に、在宅認知症高齢者を介護する家族のソーシャルサポート尺度の開発を行った。

**第2段階(平成27年度)**は、第1段階で対象とした ~ を対象に、作成した尺度を用いて質問紙調査を実施し、在宅認知症高齢者を介護する家族のソーシャルサポートおよび関連要因(QOL(SF-8スタンダード版1ヶ月)、介護負担感(Zarit介護負担尺度日本語版短縮版(J-ZBI\_8))との関連を明らかにした。

**第3段階(平成28年度)**は、在宅認知症高齢者を介護する家族のソーシャルサポートを活用した支援モデルについて、地域包括支援センター職員を対象に面接調査を実施した。

## 4. 研究成果

本調査では、314名(82.8%)より回収した。在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポート尺度は、探索的因子分析にて、【情緒的支援】【実用的家事介護支援】【適切な情報提供】【介護への意味づけへの支援】【レスパイトのための調整】の5つの下位概念から構成された。尺度全体の Cronbach 係数は、0.880であり信頼性は検証された。確認的因子分析によるモデル適合度において、GFIは0.865、AGFIは0.854、CFIは0.854、RMSEAは0.083でありモデルの適合度は高く構成概念妥当性は確保された。再テスト法により安定性が、「地域住民用ソーシャルサポート尺度(JMS-SSS)(堤ら、2000)」と正の相関により並存妥当性が確保された。「在宅認知症高齢者家族のソ-シャル

サポート尺度」と「Zarit 介護負担尺度日本語版の短縮版(J-ZBI\_8)」の合計得点の相関を確認し、互いに優位な負の相関が認められ基準関連妥当性を確認した。さらに、「在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポート尺度」と「健康関連 QOL 尺度:SF-8」の身体的健康(PCS-8)には関連が認められなかったが、精神的健康(MCS-8)と互いに優位な正の相関が認められ基準関連妥当性を確認した。専門職が提供するソーシャルサポートと「介護負担」、「PCS-8:身体的健康」、「MCS-8:精神的健康」のいずれにも関連する結果が得られたことは、専門職の介入の余地を十分に示した結果といえる。そして、看護職が趣味の継続や介護者の疲労をアセスメントしサービス調整を行うことと「PCS-8:身体的健康」、「MCS-8:精神的健康」に関連がみられたことから、介護者が認知症高齢者と暮らす生活パターンを新たに作り出し、生活の中に介護を組み込んでいくために、介護の時間を確保するための仕事の調整や家事の工夫、家族介護者のストレスを軽減するような調整が必要であることが明らかとなった。本研究により、在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポート尺度の活用により、在宅で生活する認知症高齢者家族のソーシャルサポートの有無とサポート源を測定することが可能となった。また、在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポートと介護家族の介護負担感、健康関連QOLとの関係も明らかとなった。今後は、在宅認知症高齢者家族のソーシャルサポートと家族の主観的健康感、介護負担感、認知症高齢者のBPSDなどのアウトカムとの関連性の検証などを進めることで、効果的な介入モデルの構築について検討を深めることができる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)  
安武綾, いろいろな研究デザイン: エスノグラフィー, 産業ストレス研究, 23(3), 229-232, 2016.

〔学会発表〕(計 3 件)  
安武綾, 在宅で生活する認知症高齢者家族の調整的サポートの特徴, 第 45 回日本看護協会ヘルスプロモーション学術集会, 熊本, 2014.

安武綾, 在宅認知症高齢者のソーシャルサポートと介護負担感の関連, 第 21 回に本在宅ケア学会学術集会, 東京, 2016.

Aya Yasutake, Social support of the Japanese elderly with dementia and caregivers living at home, Kumamoto University-Shandong University Life Science Symposium, 2016.

〔図書〕(計 1 件)  
渡辺裕子(監修), 安武綾(分担), 家族看護学を基盤とした在宅看護論第 3 版-認知症を有する療養者の理解と在宅看護のポイント, 日本看護協会出版会, 261-274, 2014.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者 安武綾 (YASUTAKE, Aya)  
熊本大学大学院・生命科学研究部・准

教授 研究者番号：40366464

(2)研究分担者  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：

(4)研究協力者  
( )